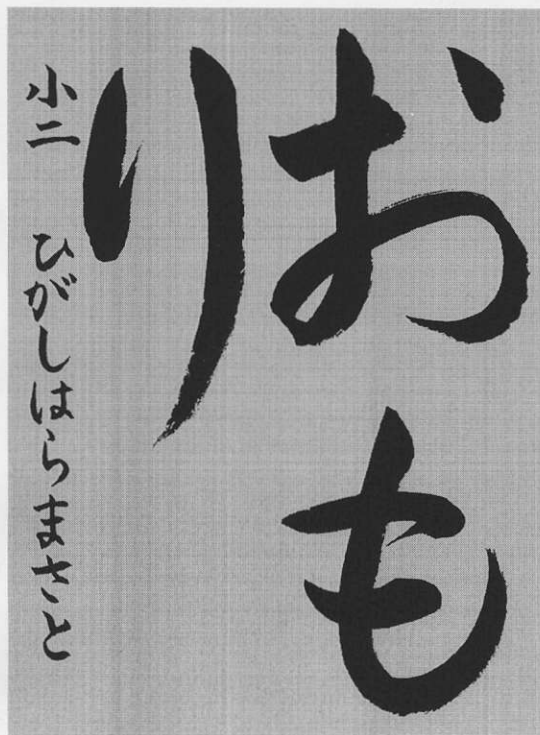


〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

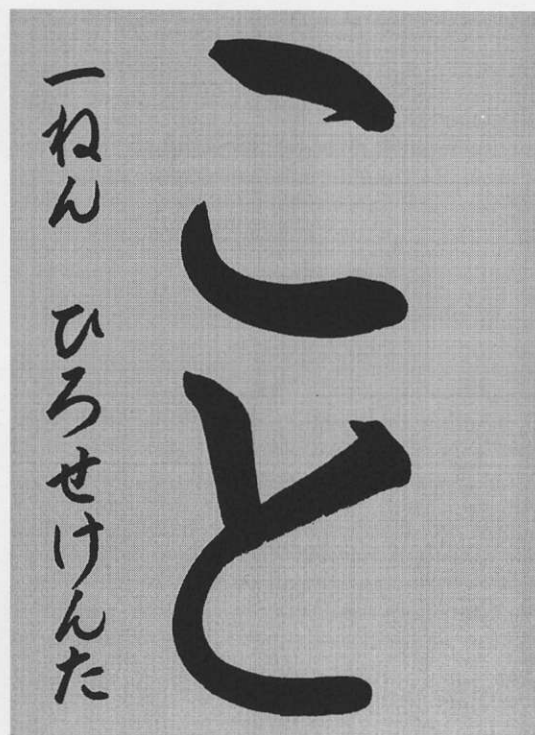
※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(硬筆も同じ)

小学2年参考手本

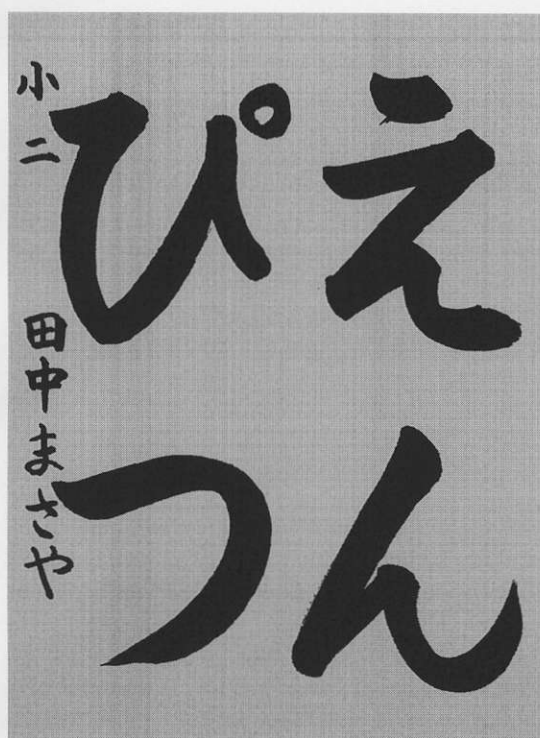
幼・小学1年参考手本



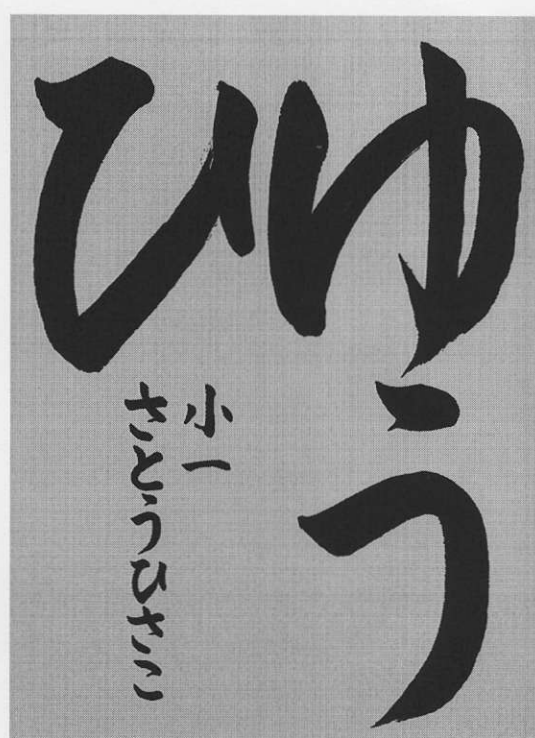
東原扇桜先生



橋本玉扇先生



阿部蕙芳先生



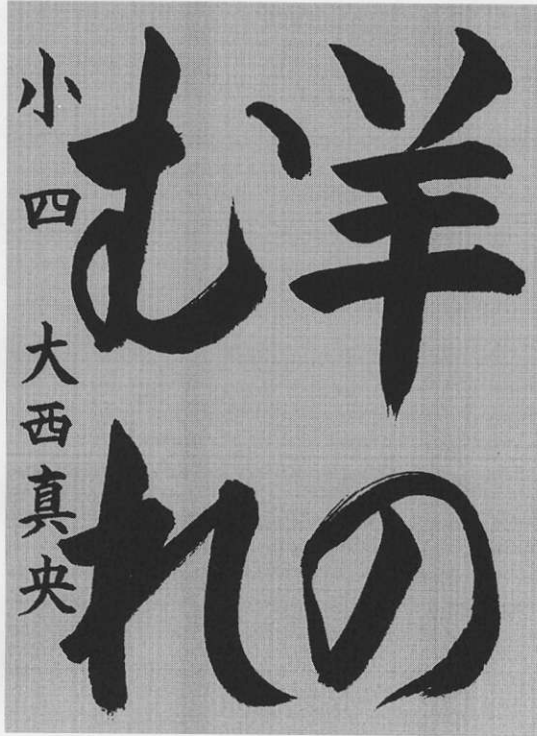
佐藤菜扇先生

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

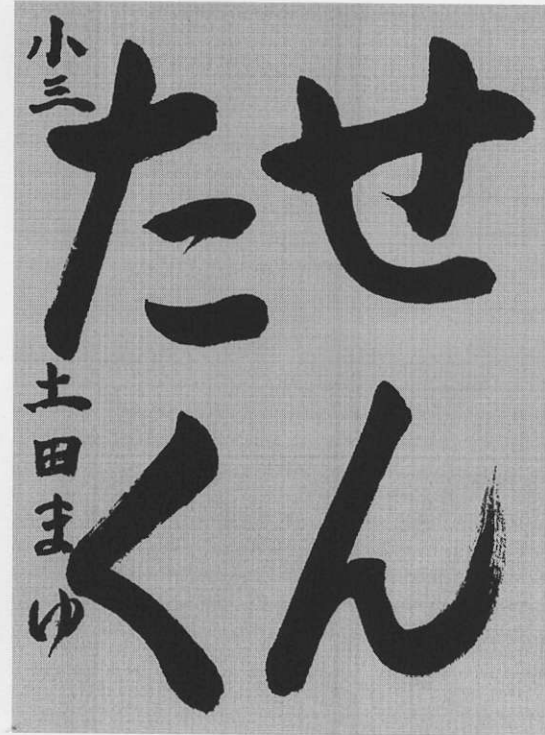
※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。（硬筆も同じ）

小学4年参考手本

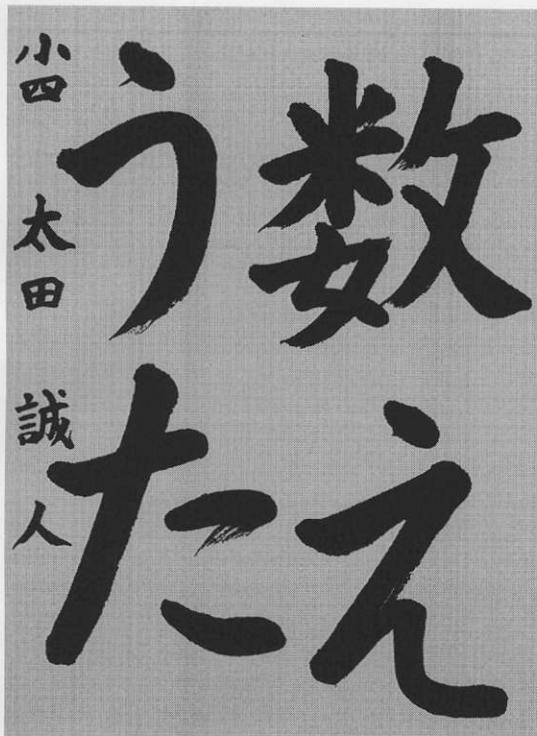
小学3年参考手本



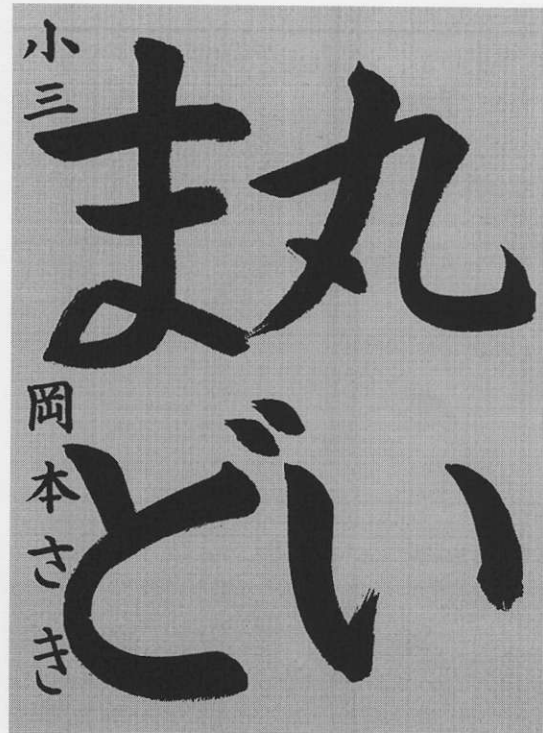
加 藤 眺 溪 先生



土 田 詢 扇 先生



太 田 蓮 紅 先生



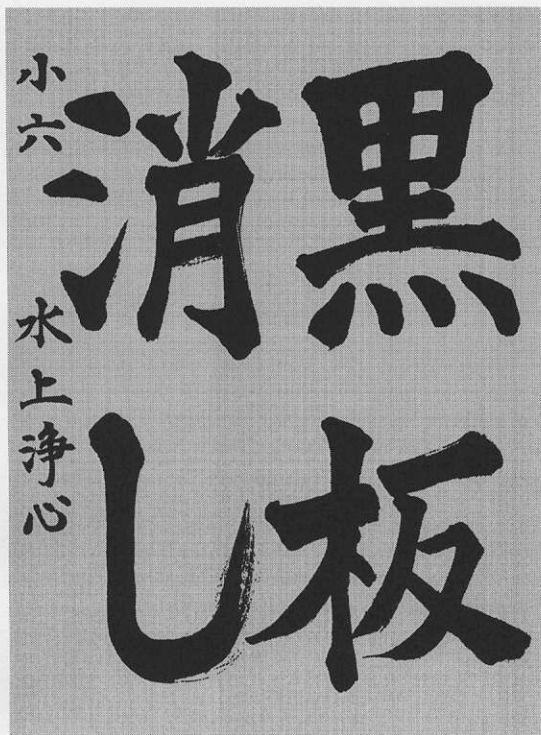
稲 垣 小 燕 先生

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

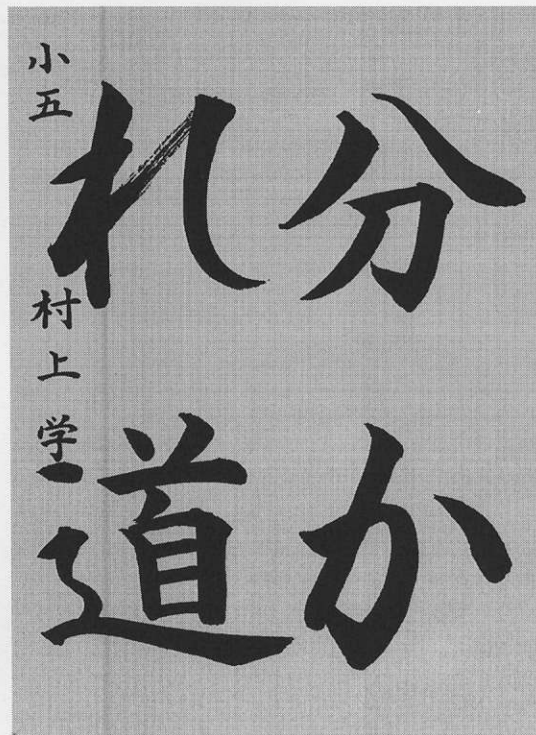
※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。（硬筆も同じ）

小学6年参考手本

小学5年参考手本



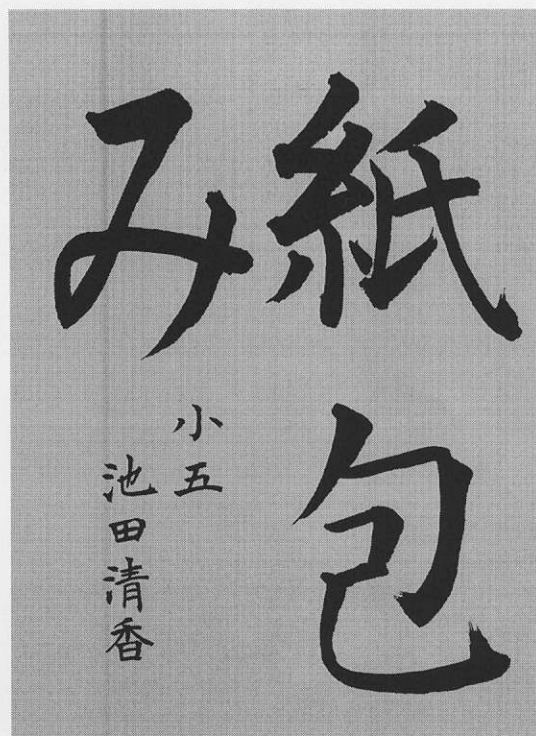
浜谷芳仙先生



小竹石雲先生



飯高和子先生

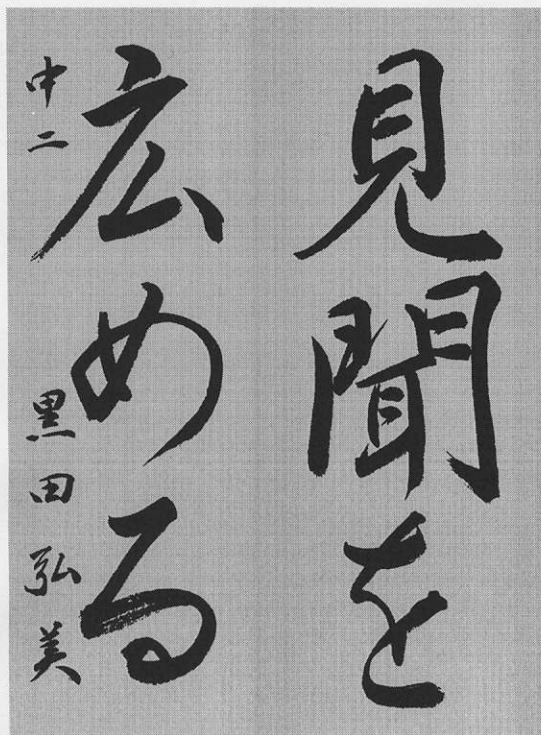


恩地春洋先生

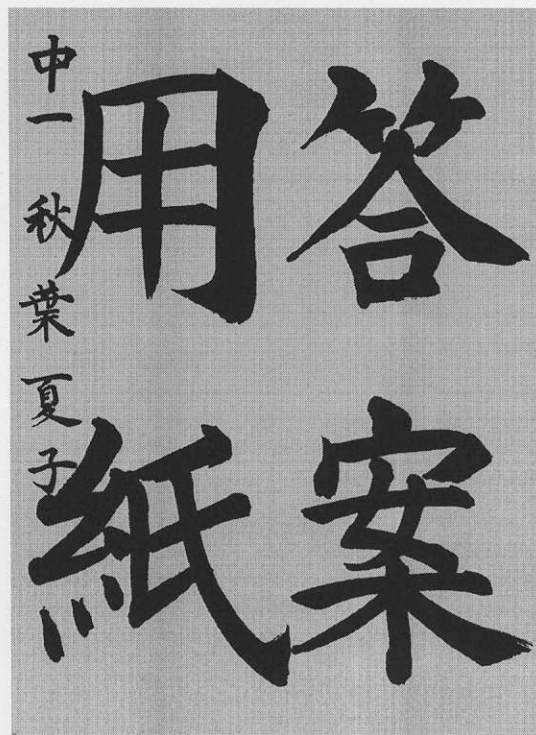
〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。（硬筆も同じ）

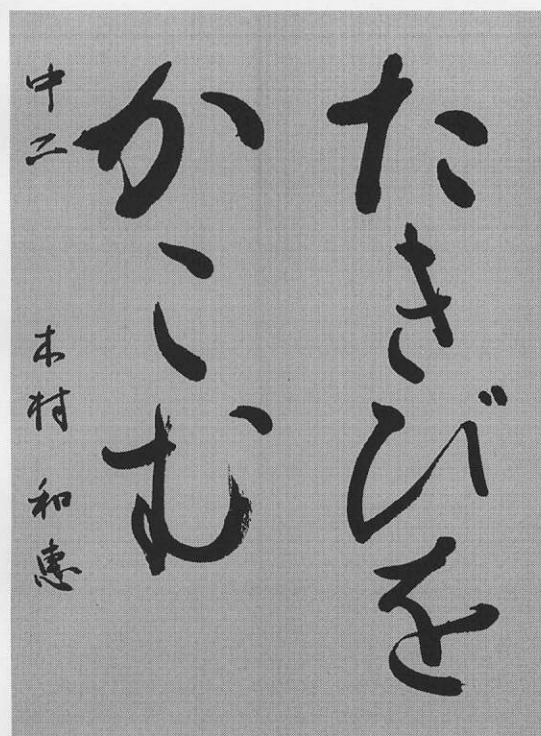
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



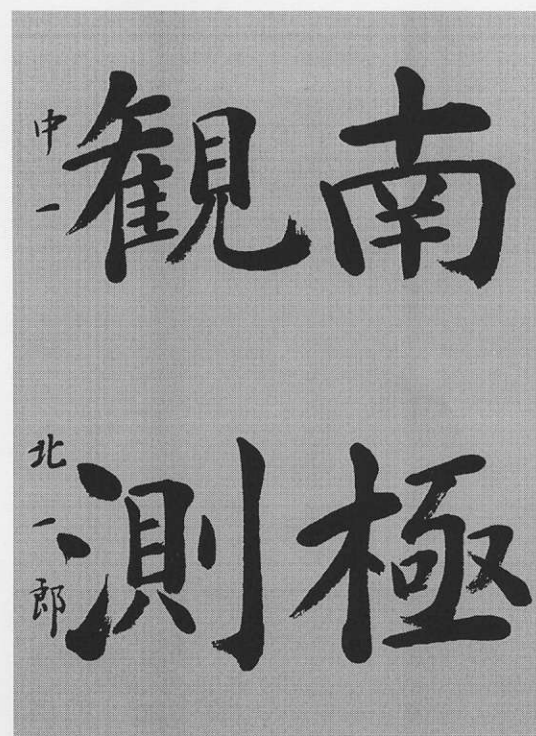
辻 元 大 雲 先生



板 垣 洞 仙 先生



砂 本 杏 花 先生

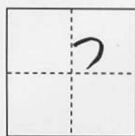


大 野 祥 雲 先生

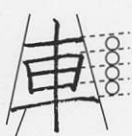
〔11月10日締切課題〕

幼・小 学 1 年

支 部 名		は	
		し	じ
だん・きゅう		っ	ど
			う
がくねん		て	車
一		い	が
なまえ		ます。	
	おがわたいしん		



そくおん
(小さくかく字)
のいちにちゅうい。



ながく



てんのいちにちゅうい
のびやかにほらう

『じどう車』
「車」をただしくかきましょう。

硬筆参考手本

筆者 恩地春洋先生
解説

〔11月10日締切課題〕 用紙は本連盟指定のものか、もしくは指定の用紙をコピーして使用してください。
※11月10日締切用の「段級が印字されたバーコード出品券」は、12月号の本と同送されますので、その券を貼って出品してください。(毛筆も同じ)

◎各学年に「学習のめあて」をつけました。

「なにをれんしゅうするか」をはっきりして一生けんめい書きましょう。

◎書写用具は、えんぴつ(HB又はBが望ましい)、フェルトペン、ボールペン、その他学年に応じたものを使用して下さい。

◎学年は漢数字(一、二、三……)、級は算用数字(10、9、8……)、段は漢数字(一、二、三、四)と記入。

◎作品に、学年と自分の「氏」「名」を本人が書く。

◎幼・小一の方は学年を書かなくてもよい。

◎支部・支局名は、本人が書けない場合は、ゴム印でもよろしい。

◎出品券は清書の右下にはってください。毛筆、硬筆の段・級位を間違いないようお願いいたします。

◎はじめて出品の方は、級位のところに「新」と記入してください。

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

小 学 3 年

支 部 名		
段 ・ 級		
学 年	三	
名 前	後藤 大河	
	味	同
	の	じ
	ち	発
	が	音
	う	で
	言	も、
	葉	意
	。	

小 学 2 年

支 部 名		
段 ・ 級		
学 年	二	
名 前	きどゆめな	
	本	お
	を	話
	作	を
	り	よ
	ま	ん
	し	で、
	よ	
	う	絵
	。	



「ひつじゅん」
四画目が一番長い
ハ 艹 艹 艹 艹 葉



「つくり」大きく
(左右のはらいの方向)
「へん」小さく

みじかい 長い



「ひつじゅん」
フ タ ア バ 発

「発」の形を正しく、ととのえて書き
ましよう。



「へん」小
せつするいちにちゅうい



「つくり」大
「へん」小



「つくり」大
「へん」小
下がでる
よこがでる

「絵本」と「つくり」の組み立てにちゅう
ういして字形を正しく書きましよう。

〔11月10日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏」「名」を本人が書く。

中 学 生

小 学 6 年

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	中三
名 前	松山 弘樹

現
で
き
た
ら
名
人
で
す。

竹
林
の
中
を
過
ぎ
て
い
く
風
の
音
を
表

日
本
古
来
の
楽
器
に
尺
八
が
あ
る。

支 部 名	
段 ・ 級	
学 年	六
名 前	阿部 真

利
用
す
る
人
が
増
え
ま
す。

し
い
学
級
文
庫
に
な
っ
て

ま
ん
が
を
置
け
ば
、
楽

接し方
現 表 林 竹

〈簡単な行書〉

1・2画 つづける
4・5画 つづける
3・6画 つづけるつもり「はね」
4画は省略して「つくり」へ
6・7画は、大きく横に張る
ように書く。
全体に気持ちを つづけて
4・5画 つづける
6画は右へ大きく張る
終画は止める
6画と9・10画の接し方に注意
最終画は止める

竹林の中を過ぎて

「名人」
「かな」は漢字よりも少し小さめに書き
ましょう。

増

田をへん平に
土（つちへん）小さく
横分間をそろえて

楽

左右のはらいの方向に
注意してつりあいを。
〈筆順〉
白 泊 楽

置

位置に注意

「学級文庫」
字形を正しく、字配りよく書きましょう。
入る角度

3 年	丸	ガン まる・い まる・める	ノ 九 丸
4 年	羊	ヨウ ひつじ	ソ ヽ 𠂔 𠂔 𠂔 羊
	数	スウ ス かず かぞ・える	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 数
5 年	道	ドウ トウ みち	ソ ヽ 𠂔 𠂔 首 道 道
	包	ハウ つつ・む	ノ 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 包
6 年	板	ハン バン いた	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 板
	民	ミン たみ	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 民
	館	カン	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 館
中学	案	アン	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 案 案
	極	キョク ゴク きわ・める きわ・まる きわ・み	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 極 極
	観	カン	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 観
	聞	ブン モン き・く き・こえる	𠂔 𠂔 門 門 門 聞 聞

筆順を学ぼう

139

行書を学ぼう (135)

(中学生の課題より、恩地春洋先生書)



行書と教科書体楷書の「ちがいを見つけましょう」

かなの字源を学ぼう (135)

む	こ	か	を	び	き	た	
武	己	加	遠	比	幾	太	源字
む	ら	か	き	比	き	た	字形
む	こ	か	を	ひ	き	た	

※字形は、平安時代の書跡から抽出した。
上段には、源字に近い形のもの配し、
下段には、現代の字体に近いものを配した

書写指導(小学校編)
全国大学書写書道教育学会編より転載

第60回全国学生書道展記念事業

「台湾見学の旅」報告

平成20年8月1日(金)

8月3日(日)

団長 恩地 春洋

第60回記念全国学生書道展の大賞、準大賞、記念賞受賞者、団体優勝校・塾代表者を対象に台湾見学の旅が実施された。同行者を含め総勢40名の訪台団である。詳しい報告内容は副団長以下団員の方々にお願いしたので、ここでは団員の名前のみ紹介しておきます。

〈役員・委員〉

副団長 小伏小扇

相談役 小伏竹村

相談役 倉林智子

秘書長 千葉蒼玄

医師 中村 宏

〈第1班〉*は班長

*有路千悠 金井良樹 佐久間歩 嶋

田千寛 田代咲 田中順子 都丸希美

藤崎量子 村上理子 目良聡衣 芳野

直子 綿貫智子(以上入賞者) 石井禮

子 佐久間京子 嶋田有希 田代紀子

藤崎啓子 芳野通子(以上同行者)

〈第2班〉*は班長

*一森亜耶奈 五藤真世 有賀美来

石川晋太郎 宇田川春香 岡田匡美

小野梓 竹村知夏 堀尾有貴 本間

香澄(以上入賞者) 石川佳美 宇田

川美恵 越智義夫 菊池昌春 本間

彩香(以上同行者)

〈役員報告〉

○副団長 小伏小扇(実行委員長)

「台湾見学の旅」

7月31日―表彰式後、上野精養軒にて結団式。そして貸切バスで成田ビューホテルへ。ホテル到着後、揮毫会のリハーサルを行った。半切二分の一に思い思いの文字を書き、押印の練習もした。この日は全員早目の就寝。

8月1日―9時20分発の全日空で台湾・台北へ。3時間30分のフライトだが、時差があり、日本より1時間遅い。台北空港到着後、専用バスで市内観光、はじめは龍山寺へ。次に台湾民主祈念館を見学し、それぞれで集合写真を撮ったが、暑くて暑くてたまらない。夕食後、士林夜市の見学に出かけた。想像を絶する人の波と活気に圧倒される。

8月2日―専用バスで忠烈祠へ。バスの停車場所がない位、多くのバスが既に到着していた。猛暑の中、キビキビとした兵士の行進に目を奪われた。今回のハイライトである台湾科学教育館に早目に着いたが、台湾側の関係者や、謝会長もすでに会場で準備しておられた。「台湾学生と日本全国学生友好揮毫大会」は、吹抜けで周囲から観覧出来る広いロビーで開催され大盛況であった。子供たちの無限の可能性に

感じ入った瞬間だった。同会場地下1階で行われた昼食交流会は、各テーブルごとに、学年を考慮した混成メンバーを組んであり、子供たちはすぐに意気投合した。写真を撮り合い、メールの交換をして友好を深めていた。交流後、会場を後にして、故宮博物院の見学に行った。皆、イヤホンを付けて会場内へ。白瓷の形をした翡翠をはじめ、国宝級の珍品を数多く見た。さらに世界一の高さを誇る504メートルの台北101ビルに足を伸ばし、37秒で上まで行くエレベーターにも乗った。屋上からは台北市内が一望出来、その眺めはすばらしく充実した一日だった。

8月3日―専用バスで免税店で最終のショッピング。買物にも少し馴れ、楽しい時間だった。13時発、全日空で帰国の途へ。三日間雨も降らず快適な旅だった。17時10分成田空港に到着。恩地春洋団長のごあいさつで解散した。みんな元気で無事大役を果たして帰国出来たことに感謝の気持ちでいっぱいだった。同行くださった中村宏ドクターには心から厚くお礼を申し上げます。秘書長の千葉蒼玄先生、ありがとうございます。

○相談役 小伏竹村(全国優勝塾・竹属会代表)

「日台学生友好交流 席上揮毫大会」に随行して

席上揮毫大会が行われる「国立台湾科学教育館」は、1階の正面から入る



第60回記念全国学生書道展台湾見学の旅

龍山寺

2008.8.1

と、そこは天井まで10メートルもあるかという大きなロビーになっていて、正面には「台湾学生・日本全国学生友好揮毫大会」と赤地に白文字に染め抜いた10メートルほどの横幕が張られ、すでに、紺色の大きな下敷きが敷き詰められた席上揮毫用の机が整然と並べられていました。中国書法学会理事長謝季芸(女性)先生を始めとして、同学会副理事長の穆希布先生・陳炫明先生・陳振邦先生、さらに元老として当日の相談役を務めておられた同学会顧問・

林彦助先生等が非常に友好的に応接され、子どもたちの席上揮毫も笑顔の内
に順調に進行しました。

まず、高校生と大学生とで友好揮毫が始まりました。台湾も日本も選り抜かれた人たちであるだけ、参観している私たちも舌を巻くうまさです。続いて中学生と小学生です。日本の子どもたちは画仙紙に2字から4字くらいを大きく堂々と、しかもかなりのスピードで書き進みます。台湾の子どもたちは、ほとんどが多字数で、しかもゆっくりに書いていきます。執筆は、異口同音に「撥筆法」で、筆軸は直立して運筆される。日本の子どもが側筆で一枚書く間に一行しか進まない。書の教育の「ねらい」が日本と台湾とは全く異なると思われる。

揮毫大会後、昼食会が開かれ、一つの円卓に日本、台湾半数づつが座りました。どうなることかと心配して見ていましたが、終わり頃にはメールアドレスの交換をしていました。日本の子どもたちも国際人ですね。涙がでるほど嬉しかったのを思い出しています。

○相談役 倉林智子（紅瑤）全国優勝校・群馬県立渋川女子高等学校教諭
「日台青少年文化交流の旅をして」
今回の「台湾見学の旅」の目的は、揮毫大会を通じた日台青少年の書の交流でした。



広々とした「友好揮毫大会」会場

の作品は多字数作品が多く、技術の高さに感心しました。日本側は、小中学生は「平和」「友情」などの友好を表す言葉が並び、高校生・大学生は漢字・少字数作品・漢字仮名交じり書などのバラエティーに富んだ作品が多く見られました。リハーサルの際に比べ、見違えるほど自信に満ちて堂々と揮毫している姿に頼もしさを感じました。

交流昼食会後は、写真を撮り合い、揮毫した作品を交換しましたが、このころにはすっかり気持ちを通じ合い、別れがづらい様子でした。この光景を見て、書を通じて台湾学生と交流し、友好親善を深めるという役割をしっかりと果たすことができたと思えました。帰国後、群馬県では第32回全国高等学校総合文化祭（ぐんま大会）が開催

され、高崎だるまへの絵付けと揮毫による交流会が開かれましたが、ここで「台湾見学の旅」に参加した宮城県の本間香澄さん、高知県の五藤真世さん、岡田匡美さん、千葉県の目良聡衣さんの4名とうれしい再会を果たしました。いっしょに訪台した渋川女子高校の綿貫智子、都丸希美は4人を歓迎し、台湾での思い出に花を咲かせました。

最後に、この「台湾見学の旅」を企画してくださった恩地先生をはじめ、揮毫大会の開催にご尽力いただいた中国書法学会に深く感謝いたします。

〈団員報告〉

○宇田川春香（鳥取県北栄町立

北条小学校6年）

「台湾旅行の思い出」

8月1日は、成田空港から飛行機に乗りました。飛行機は初めてだったので、ちょっと不安でしたが、そんなにこわくありませんでした。いろんなサービスマンやテレビも見れてすごく楽しかったです。台湾に着き、リュウさんというガイドさんに説明を聞きながら、龍山寺に行きました。おそなえ物が、たくさんありました。

8月2日は台湾学生との交流会がありました。私は平和と書きました。しっかり書いてよかったです。台湾の人は上手でした。その後、台北101に行きました。すごく高かったです。

私は友達がたくさんでき、夜にはいろいろなお話できて、とても楽しい

旅になりました。がんばって書いて良い賞を頂いたので、とてもうれしかったです、これからも、がんばって書きたいと思います。



立って席書する日本の学生たち

○佐久間歩（宮城県白石市立

白石中学校3年）

「台湾学生との交流席書大会」

席書大会において、私は台湾の学生達は大人の字を書くなあと思いました。また、私達日本人の書いた作品を熱心に観察していたので、勉強熱心だなあとも思いました。

友好揮毫大会は、私にとってたくさん刺激になることが二つありました。私もあの位、大人の字を書いてみせると競争心が沸き立ったことと、私よりも小さい子もいるのに、皆細かくてき



台湾の学生による席書の様子

れいな字を書くなあと、尊敬の念が生まれたことです。

友好揮毫大会が終わった後の昼食会。初めはしんとしていた席ですが、徐々に話もし始め、最後には写真撮影になる程、仲良しになりました。携帯で写した写真を台湾の学生のパソコンに写メールで送ってあげたら、届いたとの連絡をもらいました。

私はこれらの経験を活かし、今後の生活をよりよいものにしたいです。もちろん、習字も今よりもっと上手になります。

○五藤真世（高知県立 安芸高等学校3年）

『台湾・日本友好揮毫大会』

小さな国際交流が豊かな感受性を育

み、決して大きくはないけれど世界平和へと繋がる第一歩となるということに深く実感した友好揮毫会でした。

台湾学生と日本学生が揮毫をもって書の交流をすることはとても緊張することでした。台湾の大学生や高校生はもちろんですが、小学生と中学生の技術の高さには感動しました。書道と言で言ってもお互いの作風は全く違いました。しかし、その違いがあったことによって違いを楽しみ、お互いに関心を持ち合えたのではないかと思います。言葉もほとんど通じない中ではありましたが、書道に対する熱心な気持ちや好きな気持ちはお互いに一本一本の線に表れているように感じました。様々なブレッシャーの中で書いたことは、字の面だけでなく精神的にも強くなったのではないのでしょうか。

政治上や国同士には越えられない高い壁が存在するかもしれませんが、人間の心には国境は存在しないんだというところに改めて気付くことができました。本当に短い時間でしたが、この書道交流が小さな平和を生むための一部になれていたら嬉しいです。

○一森亜耶奈（同志社大学2年）

『揮毫大会の感想』

私自身、揮毫の経験は今回が2回目でしたが、やはり緊張し、1枚目は思うように書けず手慣らしとなってしまいました。その後は2枚3枚と次第に平常に戻り、無事「習静」の2文字を

残せたので安心できて良かったです。一心不乱に書けたときは、人が見ているように周りの状況は目に入らず、まるで時が一瞬停止していたかのように感じました。

台湾側の学生は、着席して書くスタイルで、立って腰をかがめて書く私たち日本側とは対照的でした。また、台湾側は小学生ながら、私たちと同じように与えられた半切2分の1の紙に、何文字もある古典漢文を小さい字で1文字ずつ慎重に書いていて、特にその姿には感心させられました。揮毫会を通して、同じ学生のような作品から刺激を受け視野も広がったと思います。最後に、私たちを選出して下さった諸先生方、そして書道を習わせてくれた旅行へ送り出してくれた家族の支えに



笑顔で作品交換、友好の瞬間！

感謝し、今回の経験を今後の書道人生に活かしていきたいです。貴重な機会をありがとうございました。

○有路千悠（明治大学4年）

『台湾席上揮毫大会』

揮毫大会は、8月2日、台北市の国立台湾科学教育館にて開催され、日本側から22名、台湾側から30名の参加がありました。

日本の学生、台湾の学生とも真剣に揮毫に取り組んでいました。また、台湾の学生の作品は全てが素晴らしいものでしたが、とりわけ小学生、中学生のそれは、私たちが圧倒されてしまうような見事なものでした。彼らは幼いころから漢字に慣れ親しんでいるためか、私が小学生の頃は簡単な漢字でも上手に書くことは困難でしたが、いわゆる旧字体や難解なものでも抵抗なく書いており、そこに文化の違いや、漢字文化の奥深さを垣間見ることができました。書を通じての台湾学生との国際交流は、学ぶものが多く、私の書道人生の中でも大変貴重なものとなりました。この経験を生かし、書の道に励みたいと思います。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった全日本学校書道連盟の先生方に感謝申し上げます。

※紙面の都合上お寄せいただいた報告を全文掲載することができませんでした。何卒ご容赦ください。（編集部）

12月8日締めきり

第32回「書の教室」書初め誌上展

出品規定の要旨

一、作品

- (1) 紙の大きさ——小画仙全紙1/4
(たて約70cm×よこ約35cm)
- (2) 文 字——課題文字による
- (3) 書 体——小学生は楷書
中学生は楷・行書

- (4) 名前の書き方——「学年」「氏」「名」を本人が書く。(幼・小一は学年を書かなくてもよい。)

二、出品手続

- (1) 出品 票——所定の様式
- (2) 出品 料——一点 六〇〇円
- (3) 締めきり日——20・12・8 必着
- (4) 出品目録——所定の様式
- (5) 出品点数——一人一点
(個人一点でも出品可能)

三、審査

- (6) 出 品 先——全日本学校書道連盟
101-0031 東京都千代田区東神田1-16-7
東神田プラザビル3階
- 個人賞——大賞、準大賞、新春賞、会長賞、副会長賞、連盟賞、他
団体賞——優勝、準優勝

四、成績通知 明年1月7日(水)

「書の教室」誌上(3月号)に、上位の方は写真を、特別賞の方は氏名を発表。
五、作品の返送は無料。

※お問い合わせは、全日本学校書道連盟書初め誌上展実行委員会へお願いします。

課 題

- 幼・小一年生用 「うし」 「こま」
- 小学校二年生用 「はる」 「ゆめ」
- 小学校三年生用 「正月」 「日光」
- 小学校四年生用 「文化」 「平和」
- 小学校五年生用 「決心」 「初春」
- 小学校六年生用 「白雪」 「新年」
- 中学校一年生用 「宇宙」 「松竹」
- 中学校二年生用 「初夢」 「紅梅」
- 中学校三年生用 「理想」 「恵風」

ご連絡

書初め誌上展について

昨年(第31回書初め誌上展)に出品された先生には、出品に必要な書類一式を募集規定と一緒に10月中にお送りする予定でおります。

《書類の内容》

- ・ 作品台帳
- ・ 出品目録(内申書)
- ・ 出品に関する諸注意
- ・ 出品票(足りない分はコピーしてお使いください)
- ・ 払込取扱票

※新規出品される先生は、電話か文書(ハガキもしくはFAX)にてお申し出ください。

なお、書道芸術院の審査会員の先生には、募集規定のみお送りいたします。
児童・生徒の書写教育にご理解いただき、ご支援、ご協力をお願いいたします。